渋川市民会館開館50周年記念事業
第50回県民芸術祭参加事業・県民音楽のひろば

群響渋川 ニューイヤーコンサート


© 白土吉枝

指揮
キンボー・イシイ




©Kazumi Kurigami

ヴァイオリン
木嶋 真優＊

2027年
1月11日（月・祝）
14：00 開演（13：15 開場）
渋川市民会館 大ホール

Program
モーツァルト
歌劇「フィガロの結婚」序曲 K.492
ブルッフ
ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26＊
ビゼー
「カルメン」組曲（キンボー・イシイ版）

※出演者・曲目はやむを得ない事情により変更になる場合がございます。

全席指定

一般	高校生以下
2,200円（当日券 2,500円）	1,000円（当日券 1,300円）

※未就学児の入場はご遠慮願います。

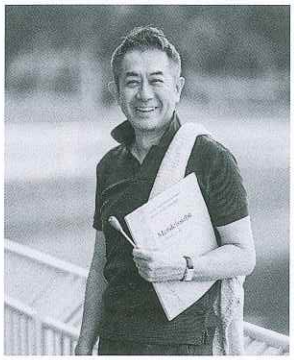
前売券発売日
11月7日(土)
◎渋川市民会館
発売初日は9：00から窓口発売
（電話予約は13：00から）
◎ローソンチケット
https://l-tike.com（Lコード：31827）

会館（ホームページ内）
オンラインチケット

主催：群馬県・（公財）群馬県教育文化事業団・（公財）渋川市まちづくり財団　後援：群馬県教育委員会・第50回県民芸術祭運営委員会
お問い合わせ：渋川市民会館 0279-24-2261（9：00～17：00 休館日除く）

渋川市民会館開館50周年記念事業
第50回県民芸術祭参加事業・県民音楽のひろば

群響渋川ニューイヤーコンサート



©白土吉枝

指揮
キンボー・イシイ
Kimbo Ishii

ベルリン・コミッシェ・オーパーの首席カペルマイスターを経て、マクデブルク劇場音楽総監督、大阪交響楽団首席客演指揮者、ドイツ・シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州立劇場音楽総監督などを歴任。近年は日本国内でも精力的に活動中。

N響、読響、都響、新日本フィル、大響、京響、名古屋フィル、札響、九響などの主催公演で指揮。また、日本でのオペラ活動としては、びわ湖ホール『フィガロの結婚』『劇場支配人』『道化師』、関西二期会『魔弾の射手』がある。

12歳で渡欧し、ウィーン市立音楽院にてヴァイオリンをワルター・バリリ、ピアノをゲトルッド・クーバセックに師事。その後、ジュリアード音楽院にてヴァイオリンをドロシー・ディレイに学び、1992年に指揮に転向。1993年と1995年のタングルウッド音楽祭に奨学生として参加。指揮を小澤征爾、サイモン・ラトルをはじめとする著名な指揮者に師事。その後、ボストン交響楽団とニューヨーク・フィルに同時にカバーコンダクターとして起用され、小澤征爾氏をはじめ、サイモン・ラトル、ベルナルド・ハイティンク、アンドレ・プレヴィン等各氏のアシスタントを務めた。

1995年にニコライ・マルコ国際指揮者コンクール（デンマーク）で入賞。2010年には「第9回齋藤秀雄メモリアル基金賞」指揮者部門を受賞。



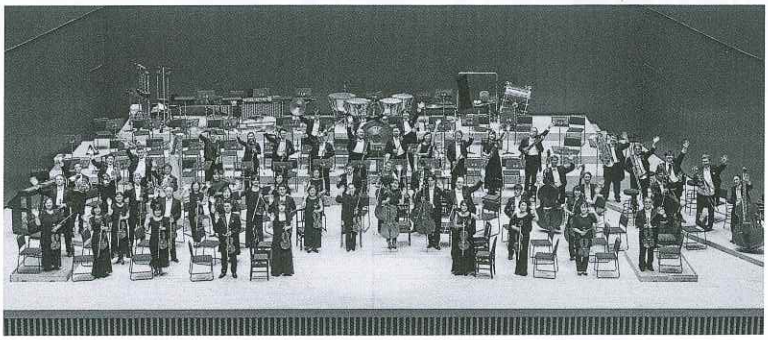
©Kazumi Kurigami

ヴァイオリン
木嶋 真優
Mayu Kishima

2000年第8回ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール・ジュニア部門にて日本人として最年少で最高位を受賞。2011年ケルン国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で優勝、あわせてその優れた音楽的解釈に対しDavid G arrett賞も受賞。2016年に第1回上海アイザック・スターン国際ヴァイオリン・コンクール優勝。これまでに欧米豪、アジア、日本のオーケストラやデュトワ、プレトニョフなど世界で活躍する指揮者と共演を重ね、その演奏は高く評価されている。2012年春にはケルン音楽大学を首席で卒業。2015年秋には同大学院を満場一致の首席で卒業し、ドイツの国家演奏家資格を取得。2016年秋には神戸市より神戸市文化奨励賞を授与された。レコーディングは、ウラディーミル・アシュケナージから強い推薦を受け、「アシュケナージ＆ＮＨＫ交響楽団」の“ツィガーヌ”で初録音。最新のCDは2024年8月にキングレコードより「Dear」をリリース。

リサイタル、オーケストラとの共演、室内楽など幅広い活動のほか「情熱大陸」などメディアへの露出も多い。2002年度文化庁海外派遣研修員。使用楽器は、宗次コレクションより特別に貸与されたAntonio Stradivari 1699 “Walner”。

群馬交響楽団 *Gunma Symphony Orchestra*



1945年戦後の荒廃の中で文化を通した復興を目指して創立 、1955年「群響」をモデルに制作された映画「ここに泉あり」が公開され、全国的に注目を集めた。1947年から始めた移動音楽教室は、2025年度までに延べ656万人を超える児童・生徒が鑑賞した。1994年に「プラハの春国際音楽祭」、「ウィーン芸術週間」から同時に招待を受け4カ国を巡る海外公演を実現。

群馬交響楽団は、定期演奏会、移動音楽教室をはじめ幅広い音楽活動を展開し、群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されている。

また2019年9月開館の「高崎芸術劇場」に活動拠点を移し、さらなる演奏活動の飛躍・向上を目指している。定期演奏会は2024年7月に第600回に達し、2025年に創立80周年を迎えた。